

## 気高中学校区教育フォーラム

演題 『日常にねむる幸の種』

講師 中桐万里子氏



二宮金次郎の7代目である中桐万里子さんに、代々語り継がれる氏の生き様を、『日常にねむる幸の種』と題してご講演いただきました。二宮金次郎といえば、薪をしょって働きながら勉強するほど勤勉で努力を怠らない人というイメージなのですが、実は氏の像の「薪」ではなく「一歩前への足」がその生き方の象徴なのだそうです。金次郎は後に尊徳と名を変えました。江戸時代、人々の生活が豊かになるように農業の振興に努めた人です。よく見て知って深く理解することを怠らず、その上で、対

策し工夫し（知恵を絞り）実践行動し言葉で伝える。小さな一歩を決して止めてはならない。そんな日常の営みを繰り返すことで、幸せの種に気づき、やがて実を实らせることにつながることを教えていただきました。

人と人・人と自然のコラボレーションが大切な農業は子育てに通じること。水車の働きは、水に飛び込んでいくことから始まり半分従い半分逆らう水とのコラボレーションで、大きくなること。「ギブ&テイクではなくテイク&ギブ」…受ける側から創造し与える側へ。テイクの達人は幸せ探しの達人。「もちつもたれつではなくもたれつもちつ」。ありがとう（有り難う…あることが難しいこと）の反対はあたりまえ（当たり前・あって当然なこと）。「報徳」。等々、たくさんのキーワードも、心に残りました。